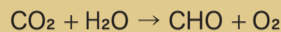
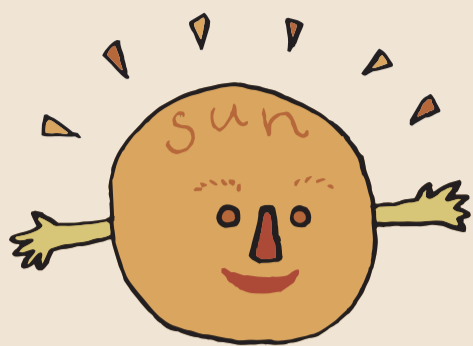


土のヒミツ

© GREEN WISE



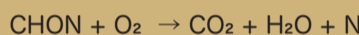
植物は光合成をして
二酸化炭素(CO₂)から
有機物(CHOさらに
CHONなど)を
つくる



その植物を動物が食べ
糞として排出される



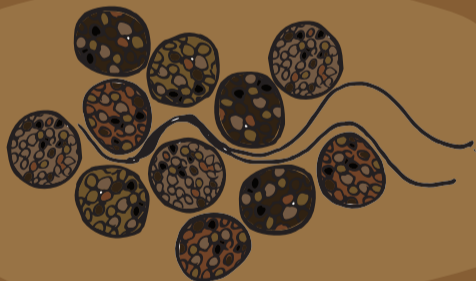
動物性堆肥は
植物の葉をつくるのに
必要な窒素(N)が豊富



ウンチも落ち葉も大好き！
ぼくたちが細かく分解するよ



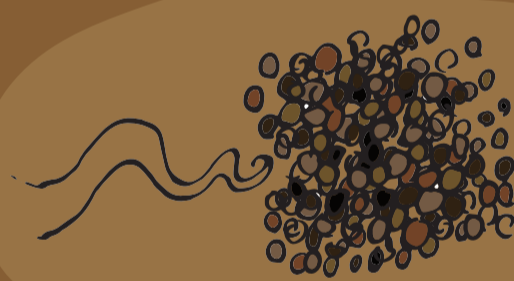
生き物にとっての[良い土]とは



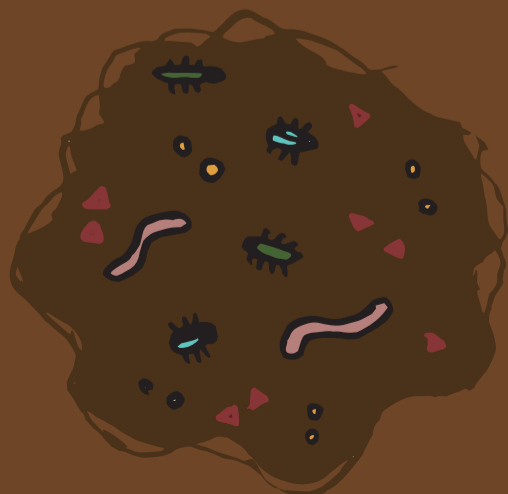
団粒構造といって、土の粒と粒の隙間に酸素
を多く含み、植物の根がスルスルと通り抜け
られるような柔らかいフワフワの土です。

土壌生物によって
葉や枝、糞などの
有機物(CHONなど)が分解され
植物の栄養をつくる

生き物にとっての[悪い土]とは



単粒構造といって、土の粒と粒の隙間も酸素も
ほとんどなく、植物の根がスルスルと通り抜け
られないようなカチカチの土です。



土の中には目に見えない小さな微生物から、ミミズやダンゴムシ、モグラといった小動物までたくさんの生き物が生息しています。土はそんな生き物たちの“すみか”です。良い土づくりをすることは、地中にくらす微生物や小動物のすみかをつくることなのです。植物を育てるのに重要なのは、生き物同士のつながりを意識にすること。土の中の生き物だけでなく、植物や地上の生き物を含めた、まわりの生き物も一緒に育てることが大切です。